

陶芸実技研修報告

都立世田谷総合高等学校教諭 大 場

1. はじめに

今年も毎年恒例になっている笠間での陶芸実技研修が行われました。私は教員になって3年目になりましたが、初任者の年には実技研修に参加する時間的・心理的余裕がなく、2年目の年に初めて参加させていただき、今年で2回目の参加となります。

参加するきっかけになったのは2011年の研究紀要を読み、様々な内容で充実した実技研修が行われていることを知り、その年授業で陶芸を行うこともあったため、実技指導の参考にさせていただくために参加を希望しました。

2. 陶芸研修

以下の内容で行いました。

日程 平成24年8月6日(月) ~8月8日(水)
場所 有限会社 山源奥田製陶所
講師 奥田 達雄 氏
研修内容
【1・2日目】
電動ろくろによる成形
タタラ作りによる成形
加飾・下絵付け
【3日目】
高台削り・化粧掛け・釉薬色指定・ 登り窯見学・片付け

参加者は10名。現地で集合しました。

3. 実習内容

この研修は私を含め毎年楽しみにされている先生方が多く、私のように初心者でも心配なく参加することができます。とてもアット

ホームな雰囲気の中、一人ひとりの進度に合わせて親切丁寧に教えていただくことができます。



今年は去年の反省を踏まえて自分なりに3点の目標を立てました。

- ① 芯出しを丁寧にいき、成形中も中心軸をぶらさない様に注意する。
- ② 粘土の厚みを薄く挽けるようにする。
- ③ 食欲の秋に向けてさんま皿を作る。



去年は菊練りに苦戦して、筋肉痛に悩まされた辛い思い出があったのですが、学校に戻ってから必死に練習した結果、少しコツがわかったので、なんとか次のステップに進むべく目標は高めに設定しました。

1・2日目はひたすら粘土と向き合い、思い描いたものをかたちにしていきます。最初はお茶碗やどんぶりを作っている方が多かったのですが、手馴れた手つきで徳利を作られる先生や、奥田先生に相談しながら急須を作られる先生など、実にバリエーション豊かな作品が並んでいきます。



不思議なことに、同じお茶碗を作っても、それぞれ作り手によってその人らしさが現れるようで、温かみのある丸いフォルム、やさしくしなやかに伸びた曲線、凛とした佇まいなどなど…様々な特徴がありました。途中、奥田先生に指導を頂く場面では、「焦らない」「手を抜かない」「でも愛情を一部分に込め過ぎない」など普段の仕事ぶりまで見透かされているかのような錯覚を覚えるほど、的確なご指導を頂き、改めて陶芸の難しさや楽しさに気付くことができました。

3日目の午後に、登り窯の見学と説明がありました。奥田製陶所の釜も東日本大震災で部分損傷しましたが、見事に修繕されていました。



4. まとめ

この原稿の執筆の依頼を受けてから、また改めて2011年・2012年の研究紀要を読み返してみました。特に実技研修に参加された先生方の多くが、研修に参加することで実技指導の技術向上はもちろん、他の学校の先生方と

の交流がとても有意義な時間となることを実感されていたように見受けられました。私も実際に授業をどう進めたらいいのか迷うことがあります。そんな時にこの実技研修で得た知識を活かして実りある授業ができるようにしていきたいと思います。まだ参加されることがない先生方は、ぜひ来年体験されることをお勧めします。

